

新産地・推定雑種・新品種報告

・タチキランソウ (*Ajuga makinoi* Nakai) ・ニシキゴロモ (*Ajuga yesoensis* Maxim. ex Franch. et Sav. var. *yesoensis*) ・ツクバキンモンソウ (*Ajuga yesoensis* Maxim. ex Franch. et Sav. var. *tsukubana* Nakai) の3種の分布が重なる・・・

飯田市山本のハナノキ湿地周辺

所沢 あさ子 *

4月～5月に草丈10cmほどで青紫の花を付けるシソ科キランソウ属のタチキランソウ、ニシキゴロモ、ツクバキンモンソウが飯田市山本や阿智村のハナノキ湿地周辺に生育している。分布調査をしてみると、個体数が多く、分布が重なる地域である。興味深い形態を持ち、それぞれの推定雑種、品種もあるので報告する。

はじめに

タチキランソウ、ニシキゴロモ、ツクバキンモンソウの3種は飯田市山本から阿智村のハナノキ湿地やそれを囲む里山に見かけ、30年前から気になっていた。最近、その3種について書かれた山崎(1964)の「3種の植物の分布は重ならない」という内容の論文があることを知りとても驚いた。3種の主な分布は、タチキランソウが東海地方、ニシ

キゴロモが日本海側、ツクバキンモンソウが太平洋側とされていた。そこで2018年から2021年まで、毎年春は3種の生育地を探して分布調査を行った。

調査

調査は2018年から2021年まで、主にハナノキ湿地周辺の飯田市山本、阿智村、二ツ山から水晶山、梨子野山から高鳥屋山、他に飯田市と下伊那郡を行った。

調査では山道が消えかかった標高差100mから700m程の谷から尾根を登り、ある時は山の中腹を巻き崩壊斜面を横切り、登って写真を撮り標本を作成し、分布調査を行った。標本ASは、標本番号所沢あさ子。

調査結果

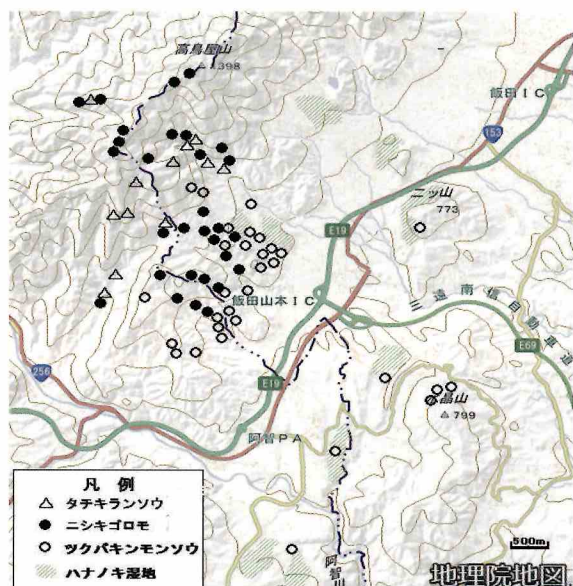
山本と阿智村の3種の分布図(地図1)を示す。

特徴として山本と阿智村では3種あるがニシキゴロモとツクバキンモンソウの個体数が多い。分布が重なる地域がある。

1. 分布の重なる地域がある

(1) タチキランソウとニシキゴロモ

・高鳥屋山中腹の米(こめ)川の上流崩壊斜面では、



地図1 ハナノキ湿地周辺に生育するタチキランソウ、ニシキゴロモ、ツクバキンモンソウ分布図(2022. 所沢・清水岳志作図) 国土地理院地図改変



写真1 分布が重なるタチキランソウ(左)とニシキゴロモ(右)

* 所沢 あさ子 〒395-0244 長野県飯田市山本 2737



写真2 分布が重なるタチキランソウ(上)と
ツクバキンモンソウ(下) 清水岳志撮影



写真3 (左) タチキランソウ：撮影のために 80cm 移動 (中) タチ
キランソウ×ニシキゴロモと (右) ニシキゴロモが近くに生育。



写真4 上唇が3mmもあるツクバキンモンソウ・
ツノアリツクバキンモンソウ(所沢)



写真5 ツノアリツクバキンモンソウ(所沢)



写真6 シロバナタチキランソウ



写真7 ニシキゴロモ花色青紫がほとんどの中で桃色もある

花崗岩が風化し崩れた脇から広い範囲にタチキランソウとニシキゴロモが群生しているのを2018年に見つけた。そこでは2種が60cm、30cmと近距離に、さらに30m程登るとこの2種が7cmで並んで咲いていた。そうこうして約80mの崖を登っていた。そこは以前にタチキランソウを見つけた急な尾根筋で、生育地が登ってきた斜面とつながっていた。両種は上流、下流でも所々に生育していた。山本北平950m、2021年5月1日採集、タチキランソウとニシキゴロモ5cmの距離。標本AS5617、AS5618(写真1)。

・阿智村梨子野川に沿った林道端12mの距離で生育。標高710m 2018年4月30日採集、ニシキゴロモ標本AS5262、標本タチキランソウAS5263、AS5310。

・阿智村清内路山道1mの距離で生育。

・飯田市山本青木20cmの距離で生育。標高920m、2021年4月24日採集、ニシキゴロモAS5604、タチキランソウ写真撮影。

(2) ツクバキンモンソウとニシキゴロモ

・山本南平80mの距離で生育。ニシキゴロモ標高741m、2020年4月27日採集、標本AS5385。ツクバキンモンソウ756m、2020年4月17日採集、AS5387。

・西平標高831m、20mの距離で生育。ニシキゴロモ2020年5月4日採集、標本AS5403。40個体。

(3) ツクバキンモンソウとタチキランソウ

・天龍村大久伊830m、両種が群生し、20から30cmの距離で生育(写真2)。2019年5月1日採集、ツクバキンモンソウAS5324・タチキランソウAS5325。

2. 推定雑種や品種、注目する形態

(1) 推定雑種 タチキランソウとニシキゴロモが80cmの距離で並んで生育(写真3)。2種の中間の形態の雑種と推定される個体が見られる。「タチキランソウ×ニシキゴロモ」。推定雑種はタチキランソウの特徴である葉に照がなくニシキゴロモの様であるが、花の大きさは両種の間。

・山本北平1037m 2020年5月7日採集、標本AS5411、AS5412。

(2) 推定雑種 ニシキゴロモ×ツクバキンモンソウ 上唇の無いニシキゴロモ

・山本南平754m、2020年5月8日採集、標本AS5413。

(3) 品種 ツクバキンモンソウの上唇は1mm以下

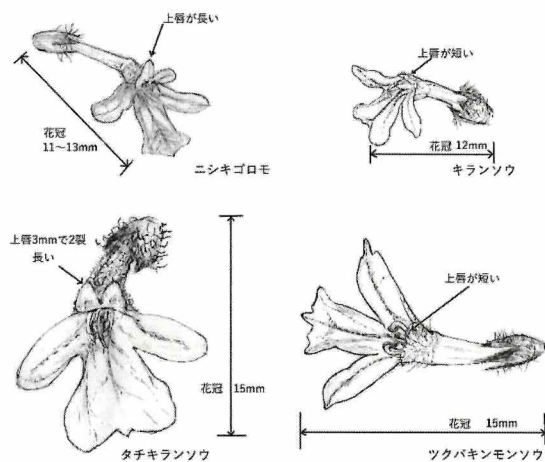


図1 キランソウ属4種の花 所沢あさ子作図

とされているが、上唇が長い2.5～3mmもある群落がある。ツクバキンモンソウの新品種と思われる。筆者は「ツノアリツクバキンモンソウ」と呼ぶ。

・飯田市箱川580m、2020年4月27日採集、標本AS5396。2021年4月18日採集、標本AS5595(写真4)。上唇が長い(3mm)物ばかりで38個体。

・飯田市山本北平740m、2021年4月23日採集、標本AS5599(写真5)。ツクバキンモンソウの群生と隣接して上唇が長い(3mm)物が14個体。

・飯田市山本西平標高730m、2019年5月17日採集、標本AS5341。5個体。

(4) 品種 白花のタチキランソウがある。「シロバナタチキランソウ」上唇4mm。

・梨子野山1000m、2018年4月23日採集、標本AS5225(写真6)。2018年4月30日採集、標本AS5259。

なお「天龍村の植物」p187と「あそび心の花観察」p151のシロバナタチキランソウとされているがツクバキンモンソウの誤認。

(5) 品種 ニシキゴロモは主に花色は青紫が多いが桃色もある。

・桃色花品種「モモイロニシキゴロモ」阿智村春日838m、2021年4月26日採集、AS5615(写真7)。斜面30m×30mの範囲に100個体。

まとめ

ニシキゴロモ、ツクバキンモンソウは下伊那では少ないかと思ったが、身近な里山で秘かにあちこちで咲いていることを確認できた。

・場所によっては分布が重なる。1. ニシキゴロモ

とタチキランソウ 2. ニシキゴロモとツクバキンモンソウ 3. ツクバキンモンソウとタチキランソウ

- ・推定雑種「タチキランソウ×ニシキゴロモ」「ニシキゴロモ×ツクバキンモンソウ」
- ・新品種ツクバキンモンソウには上唇のあるツクバキンモンソウの存在が認められた。著者は花の形から「ツノアリツクバキンモンソウ」と呼ぶ。
- ・品種「シロバナタチキランソウ」
- ・品種「モモイロニシキゴロモ」

山崎敬の論文によると3種の分布が重なる地域はないとされてきた。この点に注目する神奈川県(神奈川県植物誌)でも重なる報告はない。この3種はハナノキ湿地周辺の里山や下伊那郡において分布の交差点になっていて大変面白い地域といえる。

謝辞

浅野一男氏には3種の植物が、興味深い分布や其々の植物が様々な形態を持っていることを気付かせる貴重な山崎敬氏の論文や情報をいただきました

た。標本の同定や励ましていただいた方々に心から感謝申し上げます。

参考文献

- 山崎 敬 (1964) タチキランソウとニシキゴロモ 植物研究雑誌 39:59-60
- 井上 健 (1997) シソ科キランソウ属 長野県植物誌 P931-932
- 福岡義洋 (2019) シソ科キランソウ属 岐阜県植物誌 P701-703
- 福留正明 (2018) シソ科キランソウ属 神奈川県植物誌(下) P1417-1421
- 米倉浩司 (2021) シソ科キランソウ属 フィールド版 日本の野生植物Ⅱ P396-398
- 長野県植物目録編纂委員会 (2017) シソ科 長野県植物目録
- 浅野一男 (1992) 天龍村の植物 P187 天龍村
- 浅野一男 (2000) タチキランソウ あそび心の花観察 P151 新葉社
- 浅野一男 (2005) 阿智村の植物 P346 阿智村